



## 昭和100年 あしもとの100年をふりかえる

### 100年前の100年後 ……こたえあわせ

そういえば、昭和の少年誌や図鑑には、しばしば21世紀の未来予想図といって、SF映画のような先端のとがつた高層ビルに丸い展望室、そのビル街のあいだを抜けるようなハイウェイ……、まるでどこかの石油王のいる都市が描かれていた。それが平成になると、そんな未来予想は姿を消してゆき、21世紀を迎えてしまうことになり、現実をさまざまと見ることになった。そして100年前、少年雑誌は100年後をこのように想像した。

- 1 「100年後の世界はかうなる」『少年少女譚海』第8巻第9号  
昭和2年（1927）9月5日

古河歴史博物館所蔵 河崎家歴史資料

### 元号は「昭和」～「光文」は？

大正15年（1926）12月25日、かねてから療養中の大正天皇の崩御によって、あらたな元号の世を迎えることとなった。次の元号については、すでに25日のうちに発表され、いち早く国民の知るところとなった。号外によって「光文」と報道されたものもあったが、「昭和」が採用された。

- 2 『東京日日新聞』号外（「元号」は「光文」） 東京日日新聞発行所  
大正15年（1926）12月25日

古河歴史博物館所蔵 千賀家歴史資料

- 3 『関東タイムス』 昭和元年（1926）12月26日

古河歴史博物館所蔵

### 暗雲立ち込める世相 ～うわさ・流行病～

昭和のはじまりの古河は、まさに暗雲が立ち込めていた。土族授産事業ではじまった第百二十銀行もすでに機能していない状況で、経済的に不況に追い込まれていた。また、チブスの大量感染で、多くの人々が命を落とし、神の力によって悪疫退散を祈願するように、医療もたちゆかない。また、昭和の鐘供養なる不思議な迷信にまどわされる時代でもあった。

- 4 「町内倒る処 ボタ餅の山 夢のやうな鐘供養の迷信 いよいよ盛ん」（『関東タイムス』）  
昭和2年（1927）3月10日

古河歴史博物館所蔵

- 5 「岡郷村 へうと雨祟る 浸水家屋数十戸 作物全滅す」（『関東タイムス』）  
昭和2年（1927）6月12日

古河歴史博物館所蔵

- 6 「愈々恐慌來の チブス古河」（『関東タイムス』） 昭和2年（1927）7月6日

古河歴史博物館所蔵

- 7 「各村が競つて 盛んな祭り 恐ろしい悪疫退治に 神輿渡御の出願賑ふ香取と勝鹿村」（『関東タイムス』）  
昭和2年（1927）6月12日

古河歴史博物館所蔵

- 8 「ソコ抜け騒ぎの 野木大祭り チブス退散は神の力」（『関東タイムス』）  
昭和2年（1927）7月13日

古河歴史博物館所蔵

### はやり病をぶとばせ ～悪疫退散 獅子舞復活!～

昭和2年のチブス騒動は、これまで休止していた民俗芸能をよびさますものとなつた。

悪戸新田獅子舞は、中世古河公方足利氏が古河に拠点を置いていたころ、疫病がはやったときに、子どもたちに獅子頭をかぶらせて、舞を舞わせておさめたものという。明治時代に一度休止していたこの獅子舞に、チブスを退散させる気運が盛り上がつた。かくしてこの年、古式を再現して復活をはたした。

- 9 「獅子舞ひの 順路決まる 十八日朝お仮屋前で 舞ひ初めの式 二昔前の古式の祭り」（『関東タイムス』）  
昭和2年（1927）7月15日

古河歴史博物館所蔵

- 10 悪戸新田獅子舞 昭和6年（1931） 土井利孝撮影

古河歴史博物館所蔵

- 11 悪戸新田獅子舞 昭和6年（1931） 土井利孝撮影

古河歴史博物館所蔵

- 12 悪戸新田獅子舞 獅子頭 江戸時代 古河市指定文化財

悪戸新田獅子舞保存会所蔵

## ちょっと祝祭ムード

昭和3年は、元号がかわって、あらためて即位の儀式を迎えた年であった。まだまだ、古河周辺は、明るい状況とはいえないところであったが、国家をあげてお祝いをするとともに、さまざまなイベントが練られたようであった。当時のローカル紙には、お祝いのようすや、記念事業として神社仏閣が伝えてきたものを顕彰する施設づくりに協力するといったことが書かれている。

13	『関東タイムス』大典号	昭和3年（1928）11月11日	古河歴史博物館所蔵
14	「ゴタイテン ヲ オヒハヒ シテ コドモノクニ ハナ デンシヤ ワウクワン ハナ デンシヤ」（『コドモノクニ』）	昭和3年（1928）11月	古河歴史博物館所蔵 鷹見家歴史資料
15	絵葉書 御大典花電車 文武官		古河歴史博物館所蔵
16	御大典記念国産振興東京博覧会の全景（『日本少年』）	昭和3年（1928）5月	古河歴史博物館所蔵 河崎家歴史資料
17	絵葉書 国防館	昭和3年（1928）	古河歴史博物館所蔵

## 戦争とその前後のくらし

日本が国際的な地位を高めていくなかで、いくつもの国際交流をはたしていった。

昭和初期、アメリカから日本へ両国の親善のためにと、1万3000体ちかくもの人形が贈られた。「青い眼の人形」と称される人形である。古河にも、当時迎えられ、交流イベントも幼稚園・小学校において行われた。

しかし、両国間はのちに世界を舞台にした戦争に巻き込まれてしまう。古河には、航空機乗員養成所が開設され、また、多くの市民が戦地に赴き、見送られていった。

18	アメリカ人形歓迎会（写真）	昭和2年（1927）	古河歴史博物館所蔵 酒井家歴史資料
19	「けふアメリカ 人形歓迎会 日米の国旗を交叉 歓迎歌を唱つて 男子校に開かる」（『関東タイムス』）	昭和2年（1927）4月21日	古河歴史博物館所蔵
20	広告「アメリカ人形歓迎会 於共楽館」（『関東タイムス』）	昭和2年6月3日日	古河歴史博物館所蔵
21	「米国大使館の バ大佐来る 幼稚園の人形歓迎会へ 親善のため臨場 みな様へ御挨拶」（『関東タイムス』）	昭和2年（1927）6月4日	古河歴史博物館所蔵
22	学籍簿 古河地方航空機乗員養成所青年訓練所		古河歴史博物館所蔵 志小田家歴史資料
23	操縦日誌	昭和18年（1943）11月22日～6月19日	古河歴史博物館所蔵 杉田家歴史資料
24	日誌	昭和19年（1944）11月～20年（1945）7月	古河歴史博物館所蔵 杉田家歴史資料
25	出征入営旗	昭和時代	古河歴史博物館所蔵 関口家歴史資料
26	陸海軍万々歳旗	昭和時代	古河歴史博物館所蔵
27	防毒マスク	昭和時代	古河歴史博物館所蔵 千賀家歴史資料
28	鉄かぶと	昭和時代	古河歴史博物館所蔵 千賀家歴史資料
28	ゲートル	昭和時代	古河歴史博物館所蔵 千賀家歴史資料
29	水筒	昭和時代	古河歴史博物館所蔵 千賀家歴史資料
30	戦没者遺骨出迎え通知・葬儀次第	昭和13年（1938）	雀神社資料

## 古河市誕生

永井路子のおじ永井三郎は、戦時中、古河町長をつとめていた。彼が戦時中に「古河のお知らせ」と題して書いた一文は、ともに歴史をあやんできた近隣町村と力をあわせて、「市」を目指したものであった。

永井が考える古河市は、都市機能をまことに集約させた都市整備をすることが目的ではないという。「自治単位の強化と町と村の有機的統合による計画経済下の厚生享受に眼目がある」と労働問題・住宅問題・工業団地等を取り上げ、「間接的収穫を期待すべき」ときわめて先見性をもった主張であった。昭和25年、古河町は単独で古河市となり、昭和28年の町村合併促進法に基づいて、近隣に声を掛けたが、永井が思い描いた「大古河市」の実現にはいたらなかった。

31	「古河のお知らせ（市にせんとする）」（『古河郷友会雑誌』72号） 永井三郎	昭和17年（1942）	古河歴史博物館所蔵
32	古河市設置申請書	昭和25年（1950）6月	古河歴史博物館所蔵 千賀家歴史資料
33	市政宣言（附 古河市全図）	昭和25年（1950）8月1日	古河歴史博物館所蔵 千賀家歴史資料
34	古河市役所看板		古河歴史博物館所蔵
35	古河市市制記念アルバム	昭和25年（1950）	古河歴史博物館所蔵
36	古河市市制5周年・古河市新郷村合併記念アルバム	昭和30年（1955）	古河歴史博物館所蔵

## 高度成長の直前を記録する 鈴木路雄の昭和

古河市内に鈴木路雄という写真家がいる。中学1年生のときに、きょうだいの子守りを条件に、輸出用のトイカメラをもらったのが、カメラとの出会いだという。20歳の頃、これから高度経済成長にさしかかる直前に、古河のまちをがむしゃらに撮影してあるいたという。その後、写真から離れることになったが、『古河の風景』『セピア色の昭和時代』は、古河の風や匂いをいまに伝える写真集である。

37	昭和31年、秋。はい写真をとるから	昭和31年（1956）秋	鈴木路雄氏撮影	古河歴史博物館所蔵
38	昭和32年、正月。セントラル劇場。	昭和32年（1957）1月	鈴木路雄氏撮影	個人蔵
39	昭和32年、春。雷電町に、ローラースケート場が開店	昭和32年（1957）春	鈴木路雄氏撮影	古河歴史博物館所蔵
40	昭和32年、夏。プール開き。	昭和32年（1957）夏	鈴木路雄氏撮影	古河歴史博物館所蔵
41	昭和32年、7月23日。古河の夏祭り。	昭和32年（1957）7月	鈴木路雄氏撮影	古河歴史博物館所蔵
42	昭和31年、暮れ。市内四丁目地内。	昭和31年（1956）7月	鈴木路雄氏撮影	古河歴史博物館所蔵
43	昭和31年、横山町の初市。	昭和31年（1956）1月	鈴木路雄氏撮影	古河歴史博物館所蔵
44	昭和31年、冬。古河競馬場。	昭和31年（1956）冬	鈴木路雄氏撮影	古河歴史博物館所蔵
45	昭和32年、春。三国橋ドックの撮影会	昭和32年（1957）春	鈴木路雄氏撮影	古河歴史博物館所蔵

## ガコちゃんの昭和世相誌

25年前まで、古河市の広報紙に四コマまんが、新聞等に一コマ漫画を連載していた中谷柳児は、世相を切り抜く名人である。

新聞連載の一コマものは、辛辣すぎて、なかなか展示をするには勇気が必要なものもあるが、ここに取り上げるガコちゃんは広報紙を通して、広く市民に知れ渡ったキャラクターであり、まさに古河を代表する昭和のキャラクターであった。

46	『古河市広報』（「ガコちゃん」第一回掲載）	昭和41年（1966）7月1日	古河歴史博物館所蔵
47	『未来への遺産』	平成12年（2000）	古河歴史博物館所蔵
48	ガコちゃん 原画	中谷柳児筆	古河歴史博物館所蔵

## 昭和のまちなみ溶け込む商いの看板

明治時代に古河のまちを撮影した写真を見ていると、ひとめで、なにを商っているのかわかる。近年は、店の名前を聞いただけでは、パン屋さんなのか美容室なのかわからない。だけど、看板を見るだけで想像できる、昭和の店先に掲げられていた看板のいくつかをここで。

49	看板 クラブ化粧品	大正～昭和初期	古河歴史博物館所蔵
50	看板 ライオン歯磨	大正～昭和初期	古河歴史博物館所蔵
51	看板 千代田香油	大正～昭和初期	古河歴史博物館所蔵
52	ホーロー看板 オリエンタル即席カレー	昭和時代	個人蔵
53	ホーロー看板 たばこ ハウスクレカレー	昭和時代	個人蔵
54	ホーロー看板 たばこ	昭和時代	個人蔵
55	ホーロー看板 塩 オリエント	昭和時代	個人蔵
56	ホーロー看板 フェザーブラシ	昭和時代	個人蔵
57	ホーロー看板 ニッカナ ドアーチェック	昭和時代	個人蔵
58	ホーロー看板 オロナイン軟膏	昭和時代	個人蔵
59	看板 金平糖	大正～昭和初期	古河歴史博物館所蔵



## 刑事有馬鎌助の昭和事件簿

昭和初期の新聞を見ていると、有馬刑事が解決した事件をしばしば見かける。一年間で捜査にかかり、逮捕にいたる事件は24件にもものぼる。

また、新聞の取り上げ方が、あたかも探偵小説の書き出しのようなカンジ。探偵小説ブームがはじまり、明智小五郎や少年探偵団も登場するこの時代、有馬刑事は、当時の暗い世相のなか、「名探偵への期待」を背負っていたのかもしれない。有馬刑事の活躍と、当時の探偵小説をここでは紹介しよう。

60	『世界少年 探偵小説号』第4巻第5号	大正10年（1921）4月1日	古河歴史博物館所蔵
61	横溝正史「冒險探偵小説 鋼鐵仮面王」（『少年世界』第37巻9号）	昭和6年（1931）9月	古河歴史博物館所蔵 河崎家歴史資料
62	野村胡堂「兄妹探偵 悪魔の王城」（『少年世界』第38巻第1号）	昭和7年（1932）1月1日	古河歴史博物館所蔵
63	溝口白羊「探偵奇談 猫の眼」（『世界少年』第6巻第3号）	大正12年（1923）2月1日	古河歴史博物館所蔵

## 公から個へ 家電の変化と社会

ラジオの試験放送は、大正14年（1925）、テレビは昭和4年（1929）、いずれも情報を大勢の人々に一斉に伝えるには重宝なものであった。これを享受するには、受信機を買って一家団欒のもとで利用していた。昭和もおわりに近くなったころ、家庭用テレビゲームが入ってくると、ようすが少し変わってきた。ゲーム機に支配されたテレビはもはや団欒の象徴ではなくなってゆく。公から個へ、昭和のおわりの家電の変化は、家族関係や社会そのものを変えてしまったような気がする。パーソナル・コンピュータ、スマートフォン、インターネットやサブスクなどが当たり前の現今、10年後、あるいは20年後に共通の思い出話はできるのだろうか。

64	「ニイチヤン キコエル」（『コドモノクニ』）	昭和3年（1928）2月 岡本帰一	古河歴史博物館所蔵 鷹見家歴史資料
65	「ラヂオ」（『幼年の友』）	昭和時代	古河歴史博物館所蔵 河崎家歴史資料
66	「ちくおんき」（『尋常小学二年』）第2巻5号	大正15年（1926）8月1日	古河歴史博物館所蔵 河崎家歴史資料
67	「おしゃべり燕」（『コドモノクニ』）	昭和5年（1930）4月号	古河歴史博物館所蔵 鷹見家歴史資料
68	パナソニック ラジオ	昭和時代	古河歴史博物館所蔵
69	TOKYO DENKI 真空管 ハーモニーラジオ UT	昭和時代	個人蔵
70	SHINTO ELECTRIC 真空管 スーパーラジオ TYPE-305	昭和時代	個人蔵
71	電話機（黒電話）	昭和時代	古河歴史博物館所蔵
72	ナショナル カラーテレビ TH 20-A2	昭和時代	個人蔵
73	NEC 真空管テレビ 14T-553	昭和時代	古河歴史博物館所蔵
74	任天堂 ファミリーコンピュータ	昭和58年（1983）	古河歴史博物館所蔵
75	E Pレコード 子門真人「およげ！たいやきくん」	昭和50年（1975）	個人蔵
76	E Pレコード フィンガーファイブ「学園天国」	昭和49年（1974）	個人蔵
77	E Pレコード 天地真理「ひとりじゃないの」	昭和47年（1972）	個人蔵
78	E Pレコード ザ・タイガース「花の首飾り」	昭和43年（1968）	個人蔵
79	E Pレコード 山口百恵「ロックンロール ウィドウ」	昭和55年（1980）	個人蔵
80	E Pレコード 舟木一夫「修学旅行」	昭和38年（1963）	個人蔵
81	E Pレコード 梓みちよ「こんにちは赤ちゃん」	昭和38年（1963）	個人蔵
82	E Pレコード 橋幸夫「潮来笠」	昭和35年（1960）	個人蔵
83	E Pレコード 吉永小百合・和田弘とマヒナスターズ「虹子の夢／泥だらけの純情」	昭和38年（1963）	個人蔵
84	E Pレコード 克美しげる「われら青春」	昭和38年（1963）	個人蔵
85	E Pレコード 西郷輝彦「星のフラメンコ」	昭和41年（1966）	個人蔵
86	E Pレコード 村田英雄「王将」	昭和43年（1968）	個人蔵
87	E Pレコード ザ・スパイダーズ「夕陽が泣いている」	昭和55年（1980）	個人蔵
88	E Pレコード ザ・テンプターズ「純情」	昭和38年（1963）	個人蔵
89	E Pレコード 加山雄三「君といつまでも」	昭和38年（1963）	個人蔵
90	E Pレコード 浅丘ルリ子「愛の化石」	昭和35年（1960）	個人蔵
91	E Pレコード ピンキーとキラーズ「恋の季節」	昭和38年（1963）	個人蔵
92	E Pレコード いしだあゆみ「ブルーライトヨコハマ」	昭和38年（1963）	個人蔵
93	E Pレコード 吉永小百合「愛と死のテーマ」	昭和41年（1966）	個人蔵